

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる」と判断しています。夏場には、感染症が再拡大したことから、感染症の影響は依然として当地の経済活動を下押ししていますが、国内外で経済活動の再開が本格化する中で、足もとでは、少しずつ持ち直しの方向に向かっています。景気判断のポイントは以下の3点です。

第一に、輸出・生産についてです。早い段階で経済活動が再開した中国に続き、ここ数か月は、米欧でも経済活動の再開が進んでいます。そうした中で、これまで堅調に推移していたIT関連財に加え、弱さがみられていた自動車関連財に関しても、持ち直しの動きがみられています。こうしたことから、これまで減少していた当地の輸出・生産は、下げ止まっています。先行きについては、世界的に雇用・所得の回復が緩慢な中で、堅調なIT関連財はもとより、自動車関連財の回復の帰趨についても、ポイントとなると思います。

第二に、個人消費についてです。夏場に感染症が再拡大する中で、外出自粛の影響を受けた外食・ホテルなどのサービス消費は厳しい状況が続いており、百貨店でも持ち直しのペースが鈍化しています。もっとも、緊急事態宣言の解除以降でみると、巣ごもり消費やテレワークなどの在宅需要を取り込んでいた家電に続き、大幅に減少していた百貨店も持ち直しに転じています。足もとでは、これまで弱い動きとなっていた自動車販売にも持ち直しの動きがみられており、個人消費は総じてみれば持ち直しの方向にあります。

第三に、企業の資金繰りの状況についてです。政府・日本銀行の措置や、金融機関の積極的な資金繰り支援などもあり、資金繰りにはひとまず目途がついたとの声が聞かれており、企業倒産件数をみても、現時点で大きく増加する状況に至っていません。もっとも、感染症の影響が長期化する中で、売上が従前の水準に回復する時期が見通し難いことから、先行きの資金繰りについて慎重な声も依然として聞かれており、今後とも、企業の資金繰りや金融機関の支援の状況を注意深くみていきたいと思えます。

関西経済は、持ち直しの動きがみられ始めていますが、引き続きサービス消費を中心に厳しさが残るほか、雇用所得環境も弱い動きが続くなど、経済活動を下押しする圧力は依然として残っています。今後とも、感染症が当地の金融経済情勢に与える影響について、しっかりとみていきたいと思えます。